



サーフショップ [K-SURF]
杉本 浩 さん

この海は帰ってきた場所

12年ぶりとなった浪板海岸の海開きについて、「嬉しいし、感謝でいっぱいです」と杉本さん。浪板海岸が東日本大震災津波で被災してしまつた時、地域の復興協議会に出た杉本さんは、地域の人たちが自分と同じように砂浜を元通りにしたいと思つていてくれたことが嬉しかったと話します。「地域の人たちの思いが無け

ればここまでこれなかった。この地域は、子どもたちが自発的にゴミを拾ってくれるなど、みんなが自分たちの海だと思つている。それが素晴らしいこと」。杉本さんは、そんな浪板海岸を「帰ってきたと思う場所」「故郷」だと話します。「子どもの頃から通つたこの海には、言い表せない安心感がある。この海にこれからたくさんの方が来てほしいし、県内一の海水浴場になってほしい」と未来への希望を語っていました。

地域が待ち望んだ海開き

7月23日(土)、浪板海岸、吉里吉里海岸の海水浴場が海開きを迎えました。浪板海岸は東日本大震災津波以来12年ぶり、吉里吉里海岸は、防潮堤工事やコロナ禍の影響で平成30年以来4年ぶりの開設となりました。

海開きに向けて、地域の自治会や子どもたち、町外からのボランティアなどにより、何度も海岸清掃が行われてきました。21日(木)には、安全祈願祭が行われ、関係者が海水浴客の無事故を祈りました。



「広報の絆」
第4回
ちから
No.512 2010年8月号

二つの海岸が海開きを行った2010年8月、広報おつちで掲載した海特集を振り返ります。

観光特集「海水浴で海を満喫しよう」を掲載。吉里吉里海岸、浪板海岸二つの海水浴場を紹介して、海に行こうと呼びかけました。当時の広報担当職員が力を入れた6ページにわたる特集でした。



2010年8月号はこちらから↓



身近な海水浴場を「知る」

海水浴場がきれいな水質であることや、海岸にまつわる歴史について取材。

寄せる波はあっても返す波はないと言われる浪板海岸の「片寄せ波」や、上を歩くと「キューッキュツ」と音がする「鳴り砂」についても解説しています。

